

付属規則D:ハンディキャップ検証

ハンディキャップ検証は、プレーヤーのハンディキャップインデックスが常に本人の実証された技量を反映するように、ハンディキャップ委員会が実施できる手続きである。ハンディキャップ検証は、ハンディキャップ委員会が、そのゴルフ倶楽部を自身のホーム倶楽部に指定したすべてのプレーヤーに対して、少なくとも1年に1回実施することを強く推奨する。

- ワールドハンディキャップシステム計算ソフトの仕様は、ハンディキャップ委員会がハンディキャップ検証を必要とするプレーヤーを特定するための補助として、レポートおよび通知を実行することを勧める。検証は、1年に1回、または必要に応じて実施できる。
- プレーヤーは、ハンディキャップ検証の手続きに関して、できる限りそれを認識し、協力する機会を与えられなければならない。要請があれば審判手続きがとれるようにしなければならない。

ハンディキャップ検証は、以下の場合に実施することができる：

- 承認された協会が、管轄地域内のゴルフ倶楽部に対して、ハンディキャップインデックスを保有するすべてのプレーヤーのハンディキャップ検証を1年に1回実施するように義務づける場合。
- ハンディキャップ委員会が、本人の実証された技量を反映していないスコアを絶えず提出しているプレーヤーのハンディキャップ検証を希望する場合。
- プレーヤーが、一定期間で提出したスコアが自身の最新のハンディキャップインデックスと合致しないと感じ、ハンディキャップ検証を要求する場合。

ハンディキャップ委員会は、ハンディキャップ検証を実施する際に、以下の内容を考慮する：

- プレーヤーのスコア記録の履歴
- 過去12～24ヶ月間のプレーヤーのハンディキャップインデックスの変動
- そのプレーヤーの想定スコアリングパフォーマンスとの差異
- 過去12ヶ月間とそれ以前の12ヶ月間におけるスコア提出頻度
- 競技ラウンドとプライベートラウンドの平均スコアディファレンシャルの比較
- マッチプレーとストロークプレーの平均スコアディファレンシャルの比較
- 個人競技と団体競技の平均スコアディファレンシャルの比較

- 承認されていないプレー形式でのスコアやパフォーマンス（分かっている場合）
- そのプレーヤーのゴルフ技量に関してハンディキャップ委員会が知っているその他の情報（例えば、レッスン受講による上達、プレー回数の減少、加齢、怪我や病気による潜在スコア技量の低下など）
- プレーヤーのホーム倶楽部で提出された採用可能なスコアの割合（%）
- プライベートラウンドで提出された採用可能なスコアの割合（%）
- 9ホールラウンドの採用可能なスコアの割合（%）
- ハンディキャップ委員会の検討対象となり得るハンディキャップ数値の変動
- 前回プレーヤーが自身のハンディキャップ通りのプレーをしてからの経過時間
- 前回プレーヤーが自身のハンディキャップ通りのプレーをして以降、提出されたスコア枚数
- プレーヤーがメンバーである他のゴルフ倶楽部から提供された情報